

## 校長ニューズレター(第19号・10月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



### 「みんなで意見をだしあうことはいいことだな・・・」

ことし7月の第7回講師招聘研修会で、6年1組の先生が研究授業をおこなった。教材は、国語で「森へ」(星野道夫)。

森へは、星野さんが、南アラスカの原生林を歩き体験したこと感じたことを書きしるした紀行文である。

授業の山場はこうであった。

子どもたちへの発問、

「『森のこわさは、すっかり消えていました。』と本文に出てくるが、いつすっかり消えたのか?本文に書かれていることにもとづいて考えてみよう」。

(注:星野さんは森のなかで、クマの道を恐る恐る歩いたり、気味の悪い大木に出くわしたり、森そのものがこわかったのです。そんな星野さんの恐怖心がすっかりなくなる場面がでてくるのです。そこで、上記の発問となるのです。)

この発問は、反射神経的に「ハイ!ハイ!」といて答えられるものではない。子どもたちは、静かに考えだした。わたしも、同様。ほかの多数の参観者たちも考え始めたと思う。

子どもたちから5つの考えがでてきた。

この5つの考えをもとに話し合いが始まった。子どもたちに、自説の理由を言ってもらった。根拠を答えさせることで、子どもたちの考えが深まっていくからだ。そうすることが、子どもたちの考える力を育てることになるからだ。授業は、このように展開していった。子どもたちは、具体的に何を考えたのだろうか、子どもたちにこの授業の感想を書いてもらったので、確認してみよう。

「——五つの場所がでてきました。どれも、理由を聞くと、あるなと思ったけど、私が思ったのは、四つ目の『こけむした倒木——。』のところ。私がこれと思ったのは、『そっと幹をなでてみました。』から、

愛情みたいなのがかんじられるから、ここで、すっかり消えたんじゃないかと思いました。今まで、こんなに真げんに考えたことがなかったので、少し楽しかったです。」(Cさん)

「——ですが、みんなの意見を聞いていたら、『それでやっと分かりました』ではなく、『ぼくはこけむした倒木にすわり、そっと幹をなでてみました』という所が、すっかりなくなった所だと思いました。それは、こわかったもの、不思議な植物の正体が分かり、その後幹をそっとなでた時の気持ちが、今まで見て来た不思議な植物や動物などを思い出しながら、

『みんなたがいに助け合ってここまで成長してきたんだね。すごいよ。ぼくもこの原生林の様に、みんなで助け合って生きていくね。』

という気持ちだったと思います。」(Hさん)

「次に、どこですっかり消えたのかを話しあいました。あがったのは五つで、私は、三の『それでやっと分かりました』だと思ったのですが、校長先生の四の理由になっとくしてしまい、『そうだな。四かもしれないな。』と思いました。人の意見で変わる事なんてあるのかと思い、『この授業をうけてよかったな。』と思いました。この日の授業で学んだことは、話しあいでは、人の意見を聞くことが大切だということです。なぜなら、もしかしたら、校長先生の意見を聞いた私のように、人の意見で変わる事だってあるし、自分の意見とちがうところを見つけて、『そんな考えもあったんだ。』と思うことができるからです。それに、おかげで、いつもの授業よりきちんときいていたので、五の場面がよく分かりました。この授業をうけて、本当に良かったです。」(Mさん)

「僕は他の人の意見や考えを聞いて、納得したこともありました。——(〔筆者注〕さらに、他の人の考え

を聞いて）僕は、『ああ、それもいいのか。』と思いました。その時、僕は答えは一つではなくいくつもあることに気づきました。その次も僕とはちがった考えを言う人たちが次々にでてきてしかもみんな納得できる答えを出していたのでとても感心しました。

——このように人の意見でも、自分の考えと照らしあわせると、授業がもっと楽しくなるということを学びました。」（Kさん）

「——これで授業は終わったけれどまたみんなを考えて意見を出しあってそのぎもんを解いていきたいなと思いました。それと、授業なのになぜかとても楽しかったです。」（Mさん）

原稿用紙5枚も書いてきた子が、つぎのような感想。  
「——私は、分からない言葉があっても、みんなで話し合ったり、発表したりして、解決していくことが大切だと思いました。これからも、いろいろな授業で話し合ったり、みんなと協力しながら授業をしていきたいです。今日は、いろんなことを学んでとても勉強になりました。」（Yさん）

わたしはこれらの感想にとっても興味を持ちました。なぜなら、本校の授業課題の一つに、「（学級全員で）学びあう授業づくり」を掲げているからです。授業は、往々にして一部の子どもたちと先生のやりとりで終始することがおおいのです。授業は学級全員のためにあるのです。

授業は、児童のひとり一人がもっているいろいろな考えを引き出し、それをほか児童の考えとつなげたり、異なる意見を戦わせたりして、児童（学級全体）の考えを整理し発展させていくことが必要です。そうすることで、子どもたちの思考力が育つのです。こういった学び合いは、学校という集団であるからこそ可能でもあるのです。

最上学年である6年生の学級で、このような学び合いが行われ始めたこと、画期的です。授業のなかで教材のなかの疑問点を学級全員で追求していく、このような授業が日常的にできるようになること、これが本校の目指すところです。講師招聘研修会を軸にして、私たち教師は授業の力を磨いているところです。ぜひ応援を！

（今年2回目となる第8回講師招聘研修会は10月27日から3日間です。）



川嶋先生から習った歌をうたいにきた子ども達



4年生の授業中（総合表現）



総合表現で熱く指揮をする先生